

《担当者名》 吉田 繁 望月真希（非）

【概要】

臨床検査学総論Ⅱで学習した知識を基盤とし、腎臓の機能を評価する検査、尿検体中の細胞や非細胞成分といった様々な有形成分の形態学的検査について理解する。また、糞便や脳脊髄液をはじめとした各種体腔液を対象とした定性的検査や形態学的検査についてその種類や方法、意義を理解する。また、近年では臨床検査技師がおこなう検体採取業務の1つである採血について基礎的な知識と採血法について理解する。採血は痛みを伴う侵襲行為であるため、医療過誤を回避するためにも血管や神経の走行などの基礎知識をはじめとして、採血に関する正しい手技と注意事項を熟知する必要がある。

【学修目標】

- 1) 一般検査の意義を理解するために、各種検体の採取や取り扱い、測定原理に関する知識を身につける。
- 2) 尿中の有形成分の種類と出現機序および意義を理解し説明できる。
- 3) 便潜血検査の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 4) 脳脊髄液の各種成分の測定原理、方法および意義を理解し説明できる。
- 5) 各種体液（喀痰、胃液、十二指腸液、穿刺液、気管支肺胞洗浄液、精液、CAPD排液、羊水、関節液）の各種成分の検査方法および意義を理解し説明できる。
- 6) 測定対象項目の測定に影響を与える共存物質を説明できる。
- 7) 測定結果と病態変化との関係を説明できる。
- 8) 各種採血の方法と注意点を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	尿検査	・ポルフィリン体、フェニルケトン体、アルカプトンの測定方法と意義 教科書：一般検査学 第2章 V-17～19	吉田 繁
2	尿検査	・5-ヒドロキシインドール酢酸（5-HIAA）、バニリルマンデル酸（VMA）、妊娠反応の測定方法と意義 教科書：一般検査学 第2章 V-16、20、21	吉田 繁
3	尿検査	・腎機能検査の測定方法と意義 教科書：一般検査学 第2章 VI	吉田 繁
4	尿検査	・尿沈渣の標本作製法、染色法、鏡検法 教科書：一般検査学 第2章 VII-1～4	吉田 繁
5	尿検査	・尿沈渣の血球、上皮細胞の種類と意義 教科書：一般検査学 第2章 VII-5、6	望月真希
6	尿検査	・尿沈渣の円柱、微生物、結晶の種類と意義 教科書：一般検査学 第2章 VII-5、6	望月真希
7	尿検査	・尿自動分析装置の構造と原理 教科書：一般検査学 第2章 VIII	吉田 繁
8	糞便検査	・便潜血の測定方法と意義 ・糞便検体の取扱方法と注意点 教科書：一般検査学 第3章	吉田 繁
9	脳脊髄液検査	・脳脊髄液の生成機序と一般性状 ・脳脊髄液検体の取扱方法と注意点 教科書：一般検査学 第4章	吉田 繁

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	脳脊髄液検査	・脳脊髄液の細胞学的検査と化学的検査の種類と意義 教科書：一般検査学 第4章	吉田 繁
11	その他の体液検査	・胃液、十二指腸液、穿刺液の検査の種類と意義 教科書：一般検査学 第6～8章	吉田 繁
12	その他の体液検査	・喀痰・気管支肺胞洗浄液、精液、CAPD排液、羊水、 関節液の検査の種類と意義 教科書：一般検査学 第5、9～11章	吉田 繁
13	採血法	・臨床検査技師の採血行為の範囲 ・採血の種類 教科書：医療安全管理学 第4章 A、B	吉田 繁
14	採血法	・採血方法（部位と手段） ・採取前後の注意事項 ・乳幼児の採血 教科書：医療安全管理学 第4章 A、B	吉田 繁
15	臨床検査学総論のまとめ	・検査結果の評価 ・検査結果から症例を考える。 キーワード：CKD、偽反応、成分変化、尿沈渣	吉田 繁

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 小テスト 20%

【教科書】

三村邦裕 編集「最新 臨床検査学講座 一般検査学 第1版」医歯薬出版 2016年

諏訪部章 編集「最新 臨床検査学講座 医療安全管理学 第1版」医歯薬出版 2016年

【参考書】

伊藤機一 編集「標準臨床検査学 臨床検査総論 第1版」医学書院 2015年

渡辺 卓 編集「標準採血法ガイドライン（GP4-A2）」日本臨床検査標準協議会 2016年

岡田茂治 他 編集「一般検査 技術教本」丸善出版 2017年

宿谷賢一 他 編集「髄液検査 技術教本」丸善出版 2015年

八木 靖二 他 編集「ポケットマニュアル 尿沈渣 第2版」医歯薬出版 2016年

八木 靖二 「実力STEP UP問題形式による尿沈渣の鑑別」医歯薬出版 2008年

東間 紘 「そこが知りたい尿沈渣検査」医歯薬出版 2006年

【備考】

その都度プリントを配布する。

クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

Google Formを利用して学習課題（小テスト）を提示する。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んでおくこと。（80分）

復習は、教科書や配付資料、小テストを活用し学習を深めること。（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

吉田 繁（臨床検査技師）、望月真希（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、検体採取から結果の解釈までに関する基本的知識を講義する。